

第32回  
2016

# ATP賞

テレビ番組を始めとする映像コンテンツの創り手が選ぶ『第32回ATP賞テレビグランプリ』（主催：ATP）が7月8日（金）六本木ヒルズハリウッドホールにて開催されました。

1年半ぶりの開催となりました今回の応募総数は、過去最高の220作品。栄えあるグランプリは、3部門の最優秀賞の中からATP会員社の投票により情報・バラエティ部門のザ・プレミアム「京都人の密かな愉しみ」（オットィモ、NHKエンタープライズ、東映京都撮影所／NHK BSプレミアム）が選出されました。

新人賞は従来の優秀新人賞だけでなく、会員社の投票によって選ばれる『最優秀新人賞』を新設し、アマゾンラテルナの奥間勝也さん、ネット配信作品などを顕彰する特別賞非放送系部門には「Huluオリジナル連続ドラマ フジコ」（共同テレビジョン／Hulu）がそれぞれ選ばれました。

総務大臣賞にもYouTube配信作品「甘いお話 Sweets Tales」（ドキュメンタリージャパン／YouTube）が選ばれるなど、配信メディアにも製作会社の企画力、制作力を発揮する場が広がっていることを感じさせる受賞式となりました。

## グランプリ 京都人の密かな愉しみ



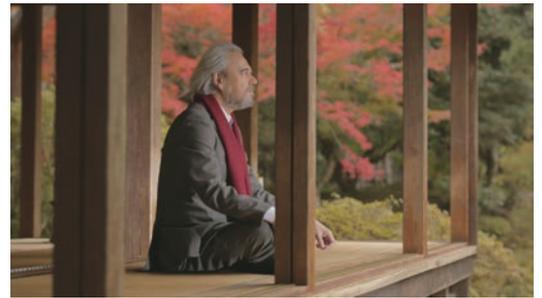
オットィモ  
NHKエンタープライズ  
東映京都撮影所／NHK BSプレミアム

●出演者  
常盤貴子、団時朗、銀粉蝶、  
大原千鶴、松尾剛アナウンサー、  
中村ゆり、福士誠治、丘みつ子、  
林遣都、谷村美月、余貴美子、  
石橋凌 他  
語り 伊東敏恵アナウンサー

●スタッフ  
脚本・演出：源孝志（オットィモ）  
制作統括：牧野望（NHK）  
伊藤純（NHKエンタープライズ）  
プロデューサー：豊田研吾（NHKエンタープライズ）  
妹尾啓太（東映京都撮影所）  
音楽：阿部海太郎（作曲家）

## ザ・プレミアム 京都人の密かな愉しみ

オットィモ、NHKエンタープライズ、東映京都撮影所 / NHK BSプレミアム



### 受賞コメント

テレビを作る楽しみと苦しみを知り抜いた方々からグランプリに選んでいただき心から嬉しく思います。この作品はいくつもの幸せな出会いから生まれました。上品でコケティッシュな若女将にこれ以上似合う人はいない常盤貴子さん、大学教授のとぼけた味わいが魅力の団時朗さん、まさにはまり役でした。そして「密かな愉しみ」の世界に生きる料理研究家の大原千鶴さんや、京菓子司・店主の石原義清さんからは、京都人のあれやこれや、、、貴重な示唆をいただきました。そして京都に深い愛憎(?)を持つ源孝志監督。さらに、助監督、制作、撮影、映像技術、照明、編集、メイク、衣裳、美術など現場のスタッフたち。様々な才能を出会わせてくれた京都の町に祝杯を捧げつつ、グランプリ受賞の喜びを分かち合いたいと思います。

制作統括・伊藤純(NHKエンタープライズ) / プロデューサー・豊田研吾(NHK)



## NHKスペシャル 「いのち 瀬戸内寂聴 密着500日」

スローハンド、NHKエンタープライズ/NHK 総合

### 受賞コメント

From 中村裕 To 瀬戸内寂聴

先生の番組がATP賞というテレビの賞をいただいたと連絡がありました。あの番組は“撮る側と撮られる側の共同制作”みたいなものなので嬉しさもひとしおです。

Form 瀬戸内寂聴 To 中村裕

おめでとう御座います、私にとっては何よりの冥途の土産が出来ました。何だか嬉しいですね。しみじみ嬉しいです。今一人でワインでお祝いしています。こうなったら裕さん、私の死ぬ所まで撮りなさい。

ディレクター 中村裕(スローハンド)



撮影 ディレクター  
中村裕(スローハンド)

制作統括  
牧野望(NHK)  
東野真(NHKエンタープライズ)  
伊豆田知子(スローハンド)

プロデューサー  
伊藤純(NHKエンタープライズ)

編集  
太田一生

音響効果  
井田栄司(アックス)

## 新春スペシャルドラマ 「富士ファミリー」

NHKエンタープライズ、フジクリエイティブコーポレーション/NHK 総合

### 受賞コメント

「家族そろって楽しむ」というテレビドラマの原点で、脚本家・木皿泉さんの「ワールドを見たい」が企画の始まりでした。富士山のふもとの小さなコンビニを舞台に、寄せ集めの家族が迎えるお正月。お互いを思いやりつつも不器用な人々の、大いに笑ってちょっと泣けちゃうドラマとなりました。素晴らしい出演者、そしてスタッフが一丸となって取り組んだ結果、このような栄えある賞を頂き、心より感謝申し上げます。

プロデューサー 内田ゆき  
(NHKエンタープライズ)



作  
木皿泉

制作統括  
磯智明(NHK)  
内田ゆき(NHKエンタープライズ)  
中山ケイ子(FCC)

演出  
吉田照幸(NHKエンタープライズ)

音楽  
阿南亮子(ミラクル・バス)

## ドキュメンタリー部門

### ザ・ノンフィクション 「円丈VS老い あがく新作落語家」

グループ現代/フジテレビジョン



#### 受賞コメント

ぶらりと入ったある日の寄席。目にしたのは、堂々とカンペを見ながら演じる落語家の姿！なりふり構わないその高座に心を奪われた。丁度芸歴50周年という節目の年、1年にわたってカメラで追い続けたが、老いてなお新しいことに挑戦し続ける円丈師匠のバイタリティは驚嘆の一言。記憶力が衰えた自分を逆手にとって、タブレット落語で復活を遂げる、このしたたかさ執念、まだまだ円丈師匠の元気な高座は続きそうです。

演出 高梨龍宏(グループ現代)

チーフプロデューサー  
味谷和哉(フジテレビ)

プロデューサー  
田野稔(グループ現代)

ディレクター  
高梨龍宏(グループ現代)

カメラマン  
大野夏郎(フリー)  
満若勇咲(ハイクロスシネマトグラフィ)

## ドキュメンタリー部門

### ザ・プレミアム 「ドキュメンタリードラマ 戦後ゼロ年」

NHKエンタープライズ、かわうそ商会/NHK BSプレミアム



#### 受賞コメント

「戦後、日本人が見た空は青かった」が、放送まで綱渡りをともにしたスタッフの合言葉。肩書きのない人々を探る取材は、困難の連続でした。食糧メーデーの熱狂の中で「これが同じ日本人か」と驚いた特攻兵。「あの頃は面白かった」と言い遺した戦災孤児。人生を賭けて証言して下さった戦後の初心と、バンパンの元締め「らく町のお時」に迫った徳永えりさんの熱演に、反響を頂きました。諦めなければ、誰かに届く。明日も頑張ろう。

ディレクター 伊東亜由美(NHKエンタープライズ)

ディレクター  
伊東亜由美(NHKエンタープライズ)

プロデューサー  
東野真(NHKエンタープライズ)  
後藤沙希(かわうそ商会)

制作統括  
伊藤純(NHKエンタープライズ)  
太田宏一(NHK)

脚本・演出  
正岡裕之(かわうそ商会)

## ドキュメンタリー部門

### ファミリーヒストリー 「森山良子 ～日系2世の父 2つの祖国のはざままで～」

NHKエンタープライズ、フラミンゴ・ビュー・カンパニー、グローバル・メディア・リレーションズ/NHK 総合



#### 受賞コメント

2000年、ある番組で、良子さんの父・久さんの故郷サンフランシスコを訪ね、戦争に翻弄された日系2世の苦悩を知りました。「東京ローズ裁判」への出廷など明らかにしましたが、戦争前後の苦難の全貌を深く掘り下げるまでには至らず、悔いが残ったのも事実です。今作は16年前と同じスタッフでの再挑戦でした。「ファミリーヒストリー」が作り上げてきた番組力があったからこそこの優秀賞だと思っています。ありがとうございます。

ディレクター 牛山真一(フラミンゴ・ビュー・カンパニー)

ディレクター  
牛山真一(フラミンゴ・ビュー・カンパニー)  
関口準(フラミンゴ・ビュー・カンパニー)

プロデューサー  
中嶋弓子(グローバル・メディア・リレーションズ)

制作統括  
小山好晴(NHK)  
東野真(NHKエンタープライズ)

## ドキュメンタリー部門

### ザ・プレミアム 「草間彌生 わたしの富士山 ～浮世絵版画への挑戦～」

ホームルーム、NHKエンタープライズ / NHK BSプレミアム



#### 受賞コメント

©YAYOI KUSAMA

草間彌生さんと出会って20年目の元旦に放送された番組。放送出来ただけで万々歳だったから、思いもよらない賞は、素直に嬉しい！テーマが日本一の「富士山」だけに、登場人物の誰もが富士山級だった。プライド、意地、自由な心、志、テクニック。前衛と伝統の間に立ち、猛獣使いになった気持ちでムチを握りしめていた。しかし、まんまと芸を仕込まれたのは私の方で、諦めない我慢強さを知った。草間さんと職人さんに感謝します。

ディレクター 松本貴子 (ホームルーム)

企画・演出 松本貴子 (ホームルーム)  
企画・制作 広瀬涼二 (ホームルーム) 川良浩和 (クリエイティブBe)  
制作 下田大樹 (NHK) 関英祐 (NHKエンタープライズ)  
撮影 南幸男 (フリー)  
編集 音響効果 大竹真利 (フリー) 井田栄司 (アックス)

## 情報・バラエティ部門

### 「ウルトラマンDASH」

IVSテレビ制作 / 日本テレビ放送網  
協力：円谷プロ



#### 受賞コメント

この度は、栄えある賞を賜わり誠にありがとうございます。これもひとえに、日本テレビ様をはじめ出演者・関係者の皆様のお力添えあつての事と、深く感謝しております。ウルトラマンDASHは、弊社の演出が企画した番組です。この番組で受賞できましたことは今後の励みになり、制作会社としてこれほど喜ばしいことはございません。今後とも「企画のIVS」と呼ばれるよう邁進して参りますので、宜しくお願い致します。

プロデューサー 萩原朋子 (IVSテレビ制作)

総合演出 中村秀樹 (IVSテレビ制作)  
チーフプロデューサー 加藤幸二郎 (日本テレビ)  
統括プロデューサー 道坂忠久 (日本テレビ)  
監修 清水星人 (日本テレビ)  
プロデューサー 島田総一郎 (日本テレビ) 萩原朋子 (IVSテレビ制作)  
アシスタントプロデューサー 笠井彩 (IVSテレビ制作)  
ディレクター 小林啓之 (IVSテレビ制作) 渡辺将司 (IVSテレビ制作) 水沼保和 (IVSテレビ制作)

## 情報・バラエティ部門

### 「1周回って知らない話 第3弾！」

いまじん、アンメック / 日本テレビ放送網



#### 受賞コメント

番組作りで特にこだわったのは、とにかく「今どきの視聴者＝若者」目線であることです。そのため、街頭インタビューや膨大な数のアンケートを徹底的に行いました。そんな中、特に勉強になったのは、ゲストの1つ1つの実績については、世代によって「知っているor知らない」があるけれど、「感動や共感できるポイント」は、世代に大差はなく、いつの時代も変わらないという事でした。今後とも制作スタッフ一同、良質な番組作りで励んでいきたいと思えます。

演出 中山準士 (いまじん)

企画・演出 内田秀実 (日本テレビ)  
構成 桜井慎一 (フリー) 林田晋一 (フリー)  
チーフプロデューサー 遠藤正累 (日本テレビ)  
プロデューサー 笠原大輔 (日本テレビ) 杉田文彦 (いまじん) 佐藤俊一 (アンメック)  
演出 中山準士 (いまじん)

# 優秀賞

## TBS 金曜ドラマ 「Nのために」



ドリマックス・テレビジョン/TBSテレビ



### ドラマ部門

プロデューサー  
新井順子(ドリマックス・テレビジョン)  
演出  
塚原あゆ子(ドリマックス・テレビジョン)  
山本剛義(ドリマックス・テレビジョン)  
阿南昭宏(ドリマックス・テレビジョン)  
原作者  
湊かなえ  
脚本  
奥寺佐渡子  
音楽  
横山克(ミラクル・バス)

### 受賞コメント

このドラマは「純愛」をテーマに、一人の女性の15年間を描いた作品です。3つの時代を交錯させ、巧妙で緻密なミステリーと、心を揺さぶられる人間ドラマを描く新しいテイストのドラマに挑戦しました。台本作りは本当に難しくたくさんの苦労がありましたが、スタッフ・キャストに支えられ助けられ、こうして素晴らしい賞を頂けたことを心より嬉しく思います。  
プロデューサー 新井順子(ドリマックス・テレビジョン)

## 日曜オリジナルドラマ 「連続ドラマW 株価暴落」



東阪企画/WOWOW



### ドラマ部門

原作  
池井戸潤(オフィスIKEIDO)  
脚本  
吉本昌弘(フリー)  
音楽  
村松崇継 (Story Music Tellers)  
監督  
鈴木浩介(ハニーバニー)  
プロデューサー  
青木泰憲(WOWOW)  
内丸摂子(東阪企画)

### 受賞コメント

「株価暴落」で優秀賞を頂けたことが何より嬉しいです。キャスト、スタッフ、視聴者の皆様に心より御礼申し上げます。実は、亡きプロデューサー土橋寛が、生前この作品をどうドラマ企画化すべきか悩んでいました。まさかその答えもいまま私が受け継ぐことになるとは…。織田裕二さんらキャストの熱演に加え、WOWOW池井戸潤原作ドラマのスタッフが再結集しバックアップして下さいたことも受賞に繋がったと感謝しております。  
チーフプロデューサー 内丸摂子(東阪企画)

# 奨励賞

## ザ・ノンフィクション 「27年ぶりの『運動靴』」



セイビン映像研究所/フジテレビジョン



### ドキュメンタリー部門

演出/プロデューサー  
河村正敏(セイビン映像研究所)  
ディレクター  
吉野和子(セイビン映像研究所)  
構成  
松田恵子(セイビン映像研究所)  
ゼネラルプロデューサー  
味谷和哉(フジテレビ)  
チーフプロデューサー  
張江泰之(フジテレビ)  
プロデューサー  
森憲一(フジテレビ)

### 受賞コメント

主人公の真樹さんが抱える葛藤には現代社会を生きる人々の普遍的な生きづらさがあるように思います。彼はその生きづらさをとても素直に語り、見せてくれたと感じています。「甘え」「怠けている」と否定され、一目見ただけでは苦しみ分からない人にも、必ず普遍的な痛みが隠れていると思います。奨励賞受賞を糧に、これからも、そんな痛みに寄り添った番組を作って行きたいと思っています。

ディレクター 吉野和子(セイビン映像研究所)

## ドキュメンタリー部門

NHK BS1スペシャル

### 「戦場の真心 チムグクル ～沖縄を救った日系人～」

東京ビデオセンター、NHKグローバルメディアサービス / NHK BS1



#### 受賞コメント

沖縄系米軍二世兵として沖縄を救った比嘉太郎さん、太郎さんの遺族、太郎さんの故郷・北中城村島袋の人たちにイッペーニフェーデービル（感謝）。沖縄に住む私は、沖縄の先輩たちに育てられた。先輩を思うと、沖縄戦の悲劇や怒りではなく、生き残ったウチナンチュのしたたかな姿を見せたかった。皆が生き、恋をして、家族を作ったからこそ、今の沖縄がある。今こそ、太郎さんの言葉「ウチナンチュの誇り」を胸に染めて生きねばならぬ。

脚本・演出 中江裕司（映画監督）

#### 制作統括

茂木明彦 (NHK)  
川畑和久 (NHKグローバルメディアサービス)  
中村芙美子 (東京ビデオセンター)

#### プロデューサー

新井真理子 (フリー) 山田佑介 (フリー)

#### 脚本・演出

中江裕司 (フリー) 押田興将 (オフィス・シロウ)

#### 撮影

川崎哲也 (サット) 三柴恵 (フリー)

## ドキュメンタリー部門

ザ・プレミアム

### 「大江戸炎上」

テレビマンユニオン、NHKエンタープライズ / NHK BSプレミアム



#### 受賞コメント

まさかのドキュメンタリー部門で受賞。驚きです。だって中身は時代劇と歴史情報番組。でも確かにドキュメンタリーでした。保科正之（江戸の幕閣）役の高橋一生さんが、袴チョンマゲのまま現代の論客と対談。お相手は、いとうせいこうさんや磯田道史さん。「保科さんも苦労が多いね」と磯田さん。対する高橋さん「拙者、悔しゅうござる」。収録が終わって高橋さん「もう絶対やりたくない…。僕は冷や汗流しながら「これぞドキュメント」と痛感。

演出 佐野達也（テレビマンユニオン）

#### 脚本演出

佐野達也（テレビマンユニオン）

#### プロデュース

齋藤圭介（NHKエンタープライズ）  
合津直枝（テレビマンユニオン）

#### 制作統括

荻野太郎（NHK）  
伊藤純（NHKエンタープライズ）

## 情報・バラエティ部門

### 「オレアレ」

NHKエデュケーショナル、テレビマンユニオン / NHK Eテレ



#### 受賞コメント

2年前の夏、「変わった企画のアイデアだけでもいいから送ってくれる?」、当時のNEDのプロデューサーからそう言われ、【人間がある日、突然他の生き物に生まれ変わったら】という3行を送り、その1年後、忘れた頃に「あれ、決まったから」と言われて、この番組が始まりました…限られた予算の中、それでも一緒に汗を流してくれた菅田将暉さんやアニメーター、関係者の皆さんに、この賞を頂けたことで少し恩返しことができました。本当に有難うございました。

プロデューサー 東考育（テレビマンユニオン）

#### 脚本

田辺茂範  
アニメーション  
田中美妃 胡ゆえんゆえん  
山北麻由子 三角芳子

#### ディレクター

藤田慎一（テレビマンユニオン）  
東考育（テレビマンユニオン）

#### プロデューサー

東考育（テレビマンユニオン）

#### 制作統括

相部任宏（NHKエデュケーショナル）  
木村和人（NHK）

## 「人生は18歳で決まる!?!」

クリエイティブネクサス、NHKエンタープライズ/NHK 総合



### 受賞コメント

私が18歳の頃なんて、ボーイフレンドのことしか頭にないミーハー姉ちゃんだった。少々大人になったからといって、偉そうな顔で「人生は18歳で決まる」なんて言えるはずもない。それでも「18歳の若者に何か伝えられることがあるかもしれない」とこんな番組と真面目に向き合ったりしてしまう。「あーこれが年をとるってことなのか」と思いながらも、こうやって賞をいただけたりするのだから、人生って不思議なものです。

プロデューサー 井上啓子(クリエイティブネクサス)

演出  
山根真吾(クリエイティブネクサス)  
ディレクター  
中森賢士(クリエイティブネクサス)  
小川原康容子(クリエイティブネクサス)  
平岡雅子(クリエイティブネクサス)  
プロデューサー  
井上啓子(クリエイティブネクサス)  
制作統括  
小川純子(NHK)  
上田真理子(NHKエンタープライズ)

## 関西テレビ 火曜22時ドラマ 「素敵な選TAXI」

メディアミックス・ジャパン/関西テレビ放送



### 受賞コメント

本作は、とても思い深い作品です。「笑いのエキスパート」のバカリズムさんとの脚本作りは新鮮で刺激的でした。竹野内豊さん扮する主人公のタクシー運転手「枝分」が回を重ねるごとに、おもしろおかしいけれど、乗客の痛みに寄り添う、とてもチャーミングな主人公に成長して、竹野内さんの新たな魅力を堪能しました。このような賞をいただき制作者冥利につきます。キャスト、スタッフ皆様の尽力の賜物と深く感謝しております。

プロデューサー 遠田孝一(メディアミックス・ジャパン)

脚本  
バカリズム(マセキ芸能社)  
オークラ(合同会社カンパニー・オークラ)  
プロデューサー  
豊福陽子(関西テレビ)  
遠田孝一(MMJ)  
八巻薫(MMJ)  
演出  
寛昌也(オリガミクスパートナーズ)  
星野和成(MMJ)  
今井和久(MMJ)

## 「洞窟おじさん 完全版」

クロニクル、NHKエンタープライズ/NHK BSプレミアム



### 受賞コメント

はじめて原作の「洞窟おじさん」を読んだとき、「こんな人が実在するなんて!」と驚きました。そして、ホンモノの洞窟おじさんにお会いし、お話を伺いましたが、その一言一言には、さらにビックリさせられました。同時に、彼の生きる力に感動し、孤独と戦いながら自分の居場所を求めてさまよった姿に共感しました。これはドラマ化する価値がある、そのときの確信が間違いで無かったことを認めて頂いた今回の賞に感謝します。

プロデューサー 大谷直哉(クロニクル)

演出・脚本  
吉田照幸(NHKエンタープライズ)  
制作統括  
牛山徹也(NHK)  
西村崇(NHKエンタープライズ)  
山際新平(クロニクル)  
プロデューサー  
大谷直哉(クロニクル)  
脚本  
児島秀樹(フリー)  
原作  
加村一馬(エルシーヌ藤が丘)

# 第32回ATP賞 全体、部門別講評

## 全体講評

審査委員長 林健嗣

史上最多の対象作品220本。開かれたATPとして、新設された非放送系部門を加えドラマ、ドキュメンタリー、情報・バラエティーの全4部門の審査には、未加盟の制作者の作品を含め、許す限りの時間をかけ、議論を尽くしました。多くの作品は、制作現場の現況に真摯に向き合う優れた作品でした。今回も「いかに制作会社が企画、制作の現場に関わり得たか」をATP賞の評価ベースとして、第32回は独創性とエンターテインメント性の高さが審査の分岐点となったように思います。さて、今日の放送事業の変化はコンテンツビジネスの多様性と海外展開というこれまでにない機会を制作会社や制作者に広げようとしています。今回のATP賞受賞作品が、そうした時代に正面から向き合い、制作者のライツ確保を確かなものとして、制作会社相互の切磋琢磨を促し、日本の映像コンテンツ産業の発展に寄与することを審査委員長として強く願うものです。



## ドキュメンタリー部門講評

審査委員 千野克彦

今回の応募作には、これら密着系の作品に秀作が多かった。「カレライスを一から作る」はゼミ生の成長を見事に捉え、「ショパンコンクール」は調律師にスポットを当て知らない世界を見せてくれた。他にも「もう一度、会いたい」「新日本風土記 廃墟」も評価の高かった作品だ。戦後70年をテーマにした作品ではドラマを取り入れたものが多かった。否定をするものではないが、なぜこの手法でドキュメンタリーを表現するのか？熟考すべき点もあるように感じる。労力をかけ掘り下げ、丹念に積み上げた証言や資料など、それら事実が突き付けるリアリティーに心届くものがある・・・と思うのだが。

## ドラマ部門講評

審査委員 佐野奈緒子

例年以上に作品のレベルが高かったことに加え、今年度のみ対象期間が半年長いため非常にハードルが高く、受賞出来なかった作品が多い。『全盲の僕が弁護士になった理由』『玉音放送を作った男たち』など、放送人として見ておくべき作品も多かった。奨励賞においても『ボクの妻と結婚してください』『デート』『オンナミチ』など観点が斬新なドラマが惜しくも受賞を逃したが、ドラマ界の未来に希望を感じた。こうした中において『富士ファミリー』は、オリジナルストーリーの構成・演出・キャスト・メッセージ性など、すべてにおいてダントツの秀作であった。ATP賞は、単に優秀な作品だけを評価するのではなく、企画の「発意」がどこにあるのか、テレビ界における制作会社の役割と重要性を念頭に審査されるべきだと、思いを更に強くした。

## 情報・バラエティ部門講評

審査委員 中山準士

誰でも映像を撮ったり作ったりするのが当たり前の現代において、プロのTVクリエイターにしか作れない作品とは何か？その点で「企画性」はもとより、「構成」「映像」「編集」という3つの観点から全作品を見させて頂いた。「ウルトラマンDASH」は、単なるタレントショーで終わらず、必ず1つ演出を乗けている工夫が秀逸であった。また「笑けずり」や「オレアレ」は、見終わった後の読後感に多少の課題はあったが、テレビにおける「新しい笑い」になる可能性を感じる秀作であった。

## 特別賞 非放送系部門講評

審査委員 品田英雄

今年度から新設されたのが非放送コンテンツ部門です。メディアが多様化し加盟各社のコンテンツ作りも拡大したことに対応しました。米国でもネットフリックスで配信された「ハウス・オブ・カード」がエミー賞に輝いていて世界的な傾向です。ただ、実際に審査すると難しい問題が起きました。これまでは作品としての視点で議論をしてきましたが、今回集まった作品は作品性と同時にビジネスモデルとして先進性が注目されたからです。その中で、高い評価を集めたのは4作品。「さかなクン研究所」は映画館向けのODSとして子どもたちの集客に貢献しました。「古事記の世界」は最初からDVD化を想定し高額6巻セットが10日で完売しています。「フジコ」はhulu初のオリジナル連続ドラマで、地上波では実現できない内容のものでした。「甘いお話」はYoutubeを通じて広く世界で楽しまれています。作品性かビジネスモデルか、議論は紛糾しました。

### 【審査委員長】

林健嗣 (《a》)

### 【審査委員】

#### ■ドキュメンタリー部門

佐藤幹夫 (NHKエンタープライズ)  
千野克彦 (フリー)  
峰添忠 (クリエイティブネクサス)

#### ■情報・バラエティ部門

桑原慶介 (ジッピー・プロダクション)  
中山準士 (いまじん)  
福浦与一 (IVSテレビ制作)

#### ■ドラマ部門

雨宮望 (フリー)  
佐野奈緒子 (大映テレビ)  
霜田一寿 (ザ・ワークス)

#### ■特別賞非放送系部門

品田英雄 (日経エンタテインメント)  
吉村文雄 (東映)

五十音順、敬称略

# 最優秀新人賞



**奥間勝也**  
アマゾンラテルナ

「ノンフィクションW いま甦る幻の映画『ひろしま』  
受け継がれていく映画人の想い」(WOWOW)の演出

### 受賞コメント

この度は最優秀新人賞に選出いただき、ありがとうございます。  
映画「ひろしま」についてもっと知りたいという私の思いから始まった企画が、一つの番組となり、このような賞までいただけたことをとても嬉しく思っております。  
映画「ひろしま」のことを深く知ることになったのは、この映画の上映活動をしていた小林一平さんとの出会いがあったからです。事前取材で色々質問をする私に、辛抱強くつき合ってくれました。  
小林さんは番組の企画途中で逝去されてしまい、完成した番組をお見せすることは叶いませんでしたが、今回の受賞を喜んでくれているのではないかと思います。「この映画を若い人にこそ知ってほしいと思っていたから、君のような若い作り手に注目してもらって僕は本当に嬉しいんだ」というようなことを、私が会いに行くたびに仰っていました。  
この受賞が再度、映画「ひろしま」やそれに携わった映画人について知ってもらうきっかけになれば、制作者としてこの上ないことだと思っています。



# 優秀新人賞



**関強**  
オルタスジャパン

NONFIX「風花雪月 ボクが見た 祖国・性の解放」(フジテレビジョン)の演出

### 受賞コメント

風花雪月、夢夢、理想理想、欲望欲望、愛愛、孤独孤独、人間人間。  
同じ漢字、同じ意味。日本と中国。  
中国生まれのボクが、日本で作ったこの番組は、  
二つの国が会って生まれた。  
ボクだから出来る映像を、これからも作っていき  
たい。





**本田拓也**  
日テレアックスオン

広島テレビ 金ぶち枠「サンドウィッチマンが上陸! 広島満喫!! かき詣ツアー」(広島テレビ放送)の演出

**受賞コメント**

普段はADとして、まわりに数多の失敗・迷惑をかけている私ですが企画通過後、様々な諸先輩方に支えられ、自分の企画が形となり無事番組も放送され、このような名誉ある賞を頂くことが出来ました。今回番組に出演して頂いたサンドウィッチマンさんをはじめ、まだまだ未熟な僕を支えて下さった広島テレビの皆様・番組スタッフの皆様、今回の番組に携わった全ての方々と出会えた運命に感謝したいと思います。



**中村市子**  
テレビマンユニオン

リアルxワールド「養子を迎えることにしました。」(日本テレビ放送網)の演出

**受賞コメント**

取材相手と出会った日から2年以上かかって30分の番組が完成しました。新人Dの私と、新人Pの五鬼助。真っ暗なトンネルの中を、毎日手探りで進んでいるような、全く進んでいないような、時には逆走しているような、そんな日々でした。取材を受けてくださった家族の生活はずっと続いて行くし、番組作りにもゴールはないと思いますが、最初の一步でこのような賞を頂けたことはとても励みになります。ありがとうございました。



©NTV



**竹岡寛俊**  
アマゾンラテルナ

「カメラマン渡部陽一がたどる再会の旅路 秘境大コーカサス山脈 チェチェン人の心と暮らし」(BSジャパン)の演出

**受賞コメント**

私がパンキシ渓谷を最初に訪れた2010年、かつて「テロの巣窟」と呼ばれた村は復興の道を歩み始めていました。滞在中、村の人たちから何度も「我々は危険なテロリストではない、平和を求める民族だ」と聞かされました。紛争が終わっても、「テロリスト」のレッテルは生きていたのです。番組は村の人たちの笑顔で溢れています。「テロリスト」という言葉から解放された、彼ら本来の姿が少しでも伝わればと願っています。





## 山中康祐

NHKエデュケーショナル

日曜美術館「まど・みちおの秘密の絵」(NHK Eテレ)の演出

### 受賞コメント

入社後4年間、語学番組を作っていました。希望を出して美術班に異動後、初めて作らせてもらった長尺の番組でした。心から作りたいと思える題材に出会い、自分の責任で突っ走らせてもらった初めての体験で評価して頂き、勇気づけられました。これからも熱意を込めて作れる番組、心に重く残る番組を多く残せるよう精進します。最後に背中を押してくれた先輩方、研究者の方々、そしてまど・みちおさんご遺族の石田家に感謝します。



©周南市美術博物館



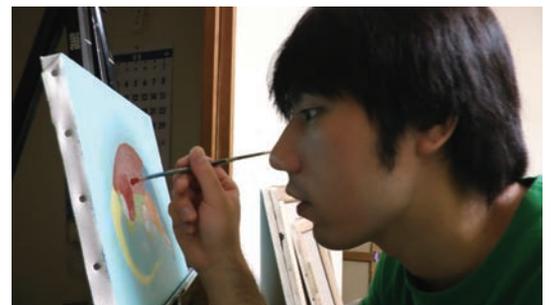
## 井上航

テレコムスタッフ

「アタラシキズナ 優しい画家、命を描く」  
(スカパー! Ch.529 ベターライフチャンネル)の演出

### 受賞コメント

受賞、嬉しいです。審査員の方も、このドキュメンタリーの主人公“画家AKI”の魅力を感じとってくれたんだなあ、と。取材に応じてくれた誰もがAKIさんのことが好きで、それぞれが感じる魅力を語ってくれました。また、制作に携わるスタッフもどんどん彼に惚れ込んでいきました。AKIさんと誰かが出会うたび、そこに居合わせる僕は、彼の新たな一面に気がつき、尊敬したり和んだりハッとさせられたり…この番組はその記録です。



## 沖浦雅俊

日テレアックスオン

「徳井と後藤と芳しの指原が今夜くらべてみました  
hulu限定配信版」(Hulu)の演出

### 受賞コメント

この度は、大変素晴らしい賞を賜り、ありがとうございます。この作品は「その企画は無理!」と言われる事に挑戦したいという意欲から生まれた作品です。その過程で諸先輩方にたくさんの無理を聞いて頂き、手助けがあったからこそ今回の受賞に繋がっているのだと感じています。改めてこの場を借りて心から感謝を申し上げます。今回の受賞を励みに、これからもたくさんの無理に挑戦し、実現に向けて精進していこうと思っております。





## 永井朝香

ドキュメンタリージャパン

「極私的ドキュメント につぼりリアル 私は故郷に帰るのか？」  
(NHK BSプレミアム) の演出

### 受賞コメント

故郷で暮らす家族と友人と私の小さな世界を番組にできて幸せです。畑を耕し、牛を育てて生きてきた祖父母を撮りたかったです。祖父母が生きてきたことの何かを映像の中に残せたことで、失ってしまうことが少しだけ怖くなりました。私はまだ東京で暮らしています。故郷の変化や、受け入れられないものに出会う度、帰ろうかと考えます。でも今は、どこにいても前を向いて、愛する人を見つけて生きていけるような気がしています。



## 小田葉月

いまじん

「変ラボ」(日本テレビ放送網) の演出

### 受賞コメント

はんぺんの上に人は乗れるのか？大学教授やはんぺん業者からは、「不可能」と笑われました。そんな固定概念を覆すために、これ以上ないくらい真剣にはんぺんと1か月間向き合いました。バカらしいことを一生懸命考えて作ったVTRを子供たちが観て笑ってもらえたとしたら、こんなに幸せなことはありません。今後も子供たちが笑って記憶に残る映像をたくさん撮り続けていきたいと思っています。



## 第32回ATP賞 新人賞講評

### 新人賞総評

本年度より、新人賞が大きく変わった。例年は、受賞対象は2～3名であった。理事会などで「もっと新人の発掘、顕彰に力を入れるべきである」といった声があがり、今年から優秀新人賞5名・奨励賞5名を表彰する運びとなった。また、最優秀新人賞が投票によって当日発表される。どの業界においても、情熱に溢れ才能のある若者が輩出してこなければ、その業界は死に体となる。本年度は33本のノミネートがあった。応募は、上司やプロデューサーからなされる。ノミネート用紙「候補者の推薦理由」には、その新人に対する将来の活躍を願う熱い言葉と、深い愛情が綴られていた。どの製作会社も必死に新人を育てようとする姿勢が貫かれており、身が引き締まる思いであった。新人を育てるには、時間とお金と労力が必要である。製作会社だけの力だけでは限界がある。これを機会にテレビ局・代理店が一体となり新人を育成していく事が重要である。

新人賞審査委員長 山口秀矢

### 【新人賞審査委員】

委員長  
山口秀矢 (えふぶんの吉)  
審査委員  
池田一葵 (テレビマンユニオン)  
作井正浩 (いまじん)  
藤尾隆 (テレバック)  
渡辺将司 (IVSテレビ制作)

五十音順、敬称略

## 最優秀新人賞 奥間勝也

実際の映画を軸に、当時の証言や現存する資料などを絡め、過去と現在をつなぐ。次々とストーリーが展開するテンポの良い編集で、圧倒的なリアリティを演出している。映画にまつわる関係者の思いや考えがストレートに表現されており、観る者を惹きつけて離さない。ひとえに、番組制作者自身の思いや熱量の賜物であるという事は想像するに難くない。「伝える」という点において、突出した作品であったと思う。

新人賞審査委員 作井正浩

## 優秀新人賞 本田拓也

まず番組全体の構成が見事。広島と宮城。ともにカキの名産地であり、宮城出身のサンドウィッチマンが比較&感心しながら分かりやすくレポート。さらに、東日本大震災の折に、広島の牡蠣業者が宮城へ出向き復興の手助けをしたという秘話を紹介し、それをサンドウィッチマンが笑いで恩返しする。笑いとドキュメントが融合した緩急のある構成に加え、テロップや情景カット、物撮りなど、細部にまでこだわりがみえる完成度の高い作品だった。

新人賞審査委員 作井正浩

## 優秀新人賞 竹岡寛俊

チェチェン人の村と言われると少し怖くて、ISISをも想起してしまったりする。そんな場所で生きる人々をとても愛情深く、「今」描いたことに大きな意味を感じた。競馬で、村人たちが勝利を祝い「アラーは偉大なり」と叫ぶシーンがあった。最近ではネガティブに捉われがちな言葉も、ナレーションでは語らず、彼らの生きた言葉として淡々と見せてくれたのがとても心地よかった。竹岡さんがずっと温めてきた企画を、現場でもたくさん考え、一生懸命取材したことが伝わる、血の通った90分だった。

新人賞審査委員 池田一葵

## 奨励新人賞 井上航

軽度の知的障害を持った画家・AKIさんのドキュメンタリー。よく見かける感動を押し付けてくる作品ではない。彼が描いた絵は周りの人間に笑顔をもたらす。わくわくさせてくれる。インタビューに出てくる人々の和やかな表情がとても印象的だ。AKIさん本人の純粋さも十分伝わってくるが、むしろ周囲のリアクションを重視した構成に好感が持てた。“障害はその人の個性”そんな言葉が浮かんでくる作品でもあった。

新人賞審査委員 藤尾隆

## 奨励新人賞 永井朝香

日々の都会生活で道に迷ってしまった27歳の女性。救いを求めるように故郷へ帰る。祖父母は温かく迎えてくれた。だが二人ともいつのまにか年を取っていた。12頭いた牛も4頭に減っていた。過疎化が進む中、時代の流れは止められない。祖父母が孫の幸せを願う姿には胸を打たれた。どこにでもある話。だからこそ強いメッセージ性を感じた。

新人賞審査委員 藤尾隆

## 優秀新人賞 関強

禁欲的な時代から、変化を遂げようとするいまの中国。「性の解放」にアイドルとして飛び込んだ1人の少女の、表面から心の中まで触れようとした取材がとてもよかった。彼女が貧しい故郷に帰った場面では、働いて固くなった父の手、白い息の出る部屋での食卓、親子の会話、細部一つ一つが丁寧で、人の温かみや苦しみ言葉ではなく視覚的に伝わってくる作品だったと思う。厚化粧を落とし、本来の自分に戻るラストシーンも素晴らしかった。生まれてからこれまで、母国を見つめ生きてきた関さんにしか撮れない作品だった。

新人賞審査委員 池田一葵

## 優秀新人賞 中村市子

特別養子縁組で突然親になった二組の夫婦。番組冒頭の対面シーン。妻が赤ん坊に駆け寄り。夫は少しだけ離れて見ている。長い不妊治療の末、ようやく手にした“我が子”。不思議なほど自然に接している。この場面でも“母は強し”を実感できる。親子で入浴しながら真実を伝えるシーン。幼子のつぶらな瞳からは、「血よりも絆」なのだと感じとれた。

新人賞審査委員 藤尾隆

## 奨励新人賞 山中康祐

人生を振り返る、資料をたどることはできても、ただの「情報」を紹介することに終始する番組は多い。だから余計に驚いたのは、番組全体に、亡くなられたまどさんとの対話を感じることであった。確かに、貴重な資料や録音テープの掘り出しも素晴らしい。でももっと素晴らしいのは、それらに触れた山中さんの喜びや驚き、考えが映像を通して伝わってくることだと思った。「視覚は感じる権利を持っている」というまどさんの言葉が印象的だった。良い作品をありがとう、お礼がしたいです。

新人賞審査委員 池田一葵

## 奨励新人賞 沖浦雅俊

パッケージの出来上がっているスタジオ番組ではあるものの、企画立案から構成、撮影、編集まで全てを新人ディレクターが中心に担当したVTRとは思えなかった。芸能人の真剣交際カップルを3組集め、それぞれトークする内容もしっかり取材し、4年分のLINEの全内容から面白い所を抜粋した点も番組作りに対する努力が伝わる内容でした。

新人賞審査委員 渡辺将司

## 奨励新人賞 小田葉月

巨大はんぺんの上に人は乗れるのか?というテーマのもと大勢の協力者や重機を用いて巨大なはんぺんを作っていく大掛かりなロケを新人ディレクターが仕切ったのはすごい。「はんぺんとは?」から始まり「巨大はんぺん作り」、「実際に人は乗れるのか」という実験結果まで飽きずに楽しめた。特にテンポの良い編集と随所に笑いの要素を入れていく演出はセンスを感じました。

新人賞審査委員 渡辺将司

## 非放送系 Huluオリジナル連続ドラマ「フジコ」

共同テレビジョン / Hulu



### 受賞コメント

テレビでも映画でも出来ない作品とは何かという自問自答の中、「フジコ」は生まれました。答えは未だ出ていませんがドラマを取り巻く環境は間違いなく変わりつつあると感じました。スタッフ、キャスト全員で新しいドラマを目指し、色々なチャレンジが詰まった「フジコ」という作品が、このような名誉ある賞を頂けたことは本当に幸せです。ありがとうございました。

演出 村上正典  
(共同テレビジョン)

プロデューサー  
川西琢 (共同テレビジョン)  
戸石紀子 (Hulu)

演出  
村上正典 (共同テレビジョン)  
脚本  
高橋泉 (カズモ)  
音楽  
やまだ豊 (フリー)  
原作  
真梨幸子 (フリー)



## 個人 柏井 信二



### 受賞コメント

このたびは栄えある特別賞を頂きまして誠にありがとうございました。柏井が約30年前会社を立ち上げた際、テレビ局に依存する体質やスタッフが懸命に働く現場を3Kなどと揶揄される実態を変えたいとよく話しておりました。以降その地位向上と制作会社の自立、誰もが安心して働くことができる環境を念頭に自ら先頭に立って参りましたが今年2月に志半ばですい臓癌のために他界しました。これまでの皆様のご厚誼に感謝し、柏井の意思を継いでより一層社業に邁進してまいります。

いまじん代表取締役社長 相川弘隆



## 制作チーム 「徹子の部屋」制作チーム

テレビ朝日映像 / テレビ朝日



### 受賞コメント

特別賞の受賞ありがとうございます! 在籍20年以上のスタッフがディレクターの半数を占め、誰かの顔色を伺うでもなく自分達が面白いと思う事を番組にする...今の制作現場では、なかなか珍しいスタイルが「徹子の部屋」には残ってます。それもこれも、自由な発想を大切に「黒柳徹子」としてテレビ朝日・田原Pのおかげです! だからこそ40周年を迎えることができました。目標は50周年! 黒柳さんと共に一同頑張ります!!

プロデューサー 三ツ木仁美  
(テレビ朝日映像)



## 「甘いお話 Sweets Tales」

プロデューサー  
河口歳彦(ドキュメンタリージャパン)

ディレクター  
越美絵 中井佐和子 二宮寛子 西口友人

ドキュメンタリージャパン



### 受賞コメント

甘いお話を制作するきっかけは2012年4月のATPからのメール。YouTubeでオリジナル動画を流す人向けのイベント案内でした。自社コンテンツで世界に発信したいと思っていた頃、イベントに参加後、すぐにチャンネル登録をしました。現在、222の国と地域からのべ206万人のアクセスがあります。しかし、人気YouTuberたちは、もっと凄い。一桁違います。この賞を励みに、更なる高みを目指したいと思っています。ありがとうございました。

プロデューサー 河口歳彦(ドキュメンタリージャパン)

## 第32回ATP賞 総務大臣賞総評

### 総務大臣賞講評

総務大臣賞審査委員長 天城鞞彦

総務大臣賞の選考基準は「ジャンル領域を問わず、海外での評価に耐え得る個性的な演出の番組に対して贈られる」となっています。また、受賞作品に関しては、「国際コンテンツ・マーケットへの出展等、ATPから海外展開のための支援を行う」とされています。

この基準にもとづいて各部門から推薦された合計7本の番組について3人の審査員で議論しました。

対象となったのは「京都人の密かな愉しみ」、「草間彌生 わたしの富士山」、「洞窟おじさん 完全版」、「富士ファミリー」、「にっぽん百名山」、「フジコ」、「甘いお話 Sweets Tales」の7本です。

議論の中で評価の高かったのは4本です。その一つ「京都人の密かな愉しみ」は京都ガイドの最上級編として極めて完成度が高い番組であることが注目を集め、「草間彌生 わたしの富士山」は世界的なアーティストを丁寧に描いた秀作として評価されましたが、いずれの番組も海外での展開のためには課題があるという指摘があり選考から漏れる結果となりました。

最終的には「フジコ」と「甘いお話 Sweets Tales」という非放送系部門から推薦された2番組が競うこととなりました。

「フジコ」はテレビドラマの常識を超えるストーリーと演出が衝撃的であり、主演の尾野真千子さんの演技には圧倒されました。新しいメディアである配信サイトに向けて製作されたことは新しい時代の到来を実感させ、海外での高い評価を強く期待させるものと評価されました。

一方「甘いお話 Sweets Tales」は東京の和菓子店を2分45秒で紹介するミニ番組54本をYouTubeで配信するという斬新な試みです。決して有名ではないものの地元で愛される小さな店を通してそれぞれの味を守り伝える人々の姿が描かれます。延べ206万人が視聴し、その86%が海外からのアクセスというのは、海外の関心に見事に応えている証拠であり、シンガポールのテレビ局がこの素材をもとに30分番組13本を作るなど、潜在的な可能性は極めて大きいと評価されました。あわせて、製作会社が自らのリスクでこれを製作し展開していることを高く評価する意見も示されました。

こうした議論の結果、第32回ATP賞 総務大臣賞は、製作・ドキュメンタリージャパン「甘いお話 Sweets Tales」に決まりました。



#### 総務大臣賞審査委員

審査委員長 天城鞞彦 (Tokyo Docs 実行委員会委員)

審査委員 伊藤慎一 (シオン)、長谷川朋子 (放送ジャーナル社)

五十音順、敬称略